



深田久弥

山の文化館だより

平成30年
春号

深田久弥 山の文化館
〒九三一〇〇六七
石川県加賀市大聖寺森場町十八
TEL (0762) 721-3311
FAX (0762) 721-1181



資料文献室(仮称)竣工!!

昨年十月着工以来、工事が終わり、いよいよ竣工の運びとなりました。建物は完成しましたが、これからは収蔵品の整理が始まります。皆さんから頂いた文献、資料で公開できず、保存されているものが多くあります。これらを分類整理し、出来ただけ展示したいと思っています。調査、研究の為に全てのリストを公開出来るよう準備していきます。

かつて、深田久弥が九山山房でヒマラヤやシルクロードなどの文献蒐集を

したごとく、幅広い山岳資料の充実を目指したいものです。その為にも、皆様から資料文献のご提供を頂き、価値ある資料文献室にして行きたいと念願しています。

八月十一日の山の日公開を目指して作業を進めてまいります。公開の晩にはぜひご来館頂きたと願っています。

久弥と五万分の一地形図と赤鉛筆と

その2

平成三十年冬号では、深田久弥の愛用した地形図が当館に収蔵されていることをご紹介したが、今回は一步突っ込んでみよう。

深田久弥山の文化館では毎月読書会を開いている。三月は『日本百名山』の中から「雨飾山」を読むことになっていたので久弥愛用の地図を出してみた。雨飾山の地図は、地理院地勢図富山の三番小瀧である。小瀧の地図は、昭和五年修正測量のものと昭和三十四年のものが収蔵されているが、昭和五年のものにしか書き込みは見当たらない。

昭和十六年六月弟弥之助さんと出かけた時のルートは、梶山から梶山新湯まで少々自信なげに、赤鉛筆で薄く引かれている。登山道の破線の上ではなく、昭和三十四年測量の地

図の登山道に近いところを通っている。昭和五年の地図にはないが、当時すでに道は変わっていたのだろうか。このときは結局登れず、同じ月の半ば過ぎ、小谷温泉から再度挑戦しているが天候不順で登れなかつた。

三度目は十六年後の昭和三十二年秋であった。今度は無事頂上を踏んでいる。赤鉛筆の線は小谷温泉から出発し途中で一旦途切れている。そして、現在の登山口を過ぎた辺りから大海川沿いに引かれている。その後、本流を越えたルートが引かれている。地図には「大海」と「フトンビシ」の鉛筆の書き込みがある。その他に、翌日小谷温泉から乙見山峠を越えたルートが引かれている。また、鎌池、鉢池の横に赤い丸などの書き込みがある。赤いサインペンで書かれているように見える。後年書き加えられたのであろうか。

参考:『日本百名山』『雨飾山』、『わが愛する山々』
『雨飾山』、『おちこちの山』、『小谷温泉付・湯跡』
以上深田久弥著作



久弥の誘い

昨年に引き続き今年も富士写ヶ岳の山麓で行われます。皆さんご存知のように、深田久弥の登山の第一歩となつた富士写ヶ岳は、著書に「高さは千メートルに少しがけるぐらいだが、二つの峰頭を並べ整然としたピラミッドをなしている」と記されています。春に咲き乱れる石楠花の見事さはもちろん、可憐な小さな花や、緑の美しさなど魅力あふれる山です。新設された方位盤を囲んで山々を語るものいいでしよう。

どなたでも自由に参加できますのでお誘いあわせの上、是非ご参加ください。



富士写ヶ岳より白山をのぞむ

『日本百名山』原点の山富士写ヶ岳

深田久弥がはじめて登った山富士写ヶ岳は江沼三山として地元で親しまれています。春には石楠花などの花が咲き乱れ、ブナの林の緑も美しく、秋には紅葉が、そして雪の季節も素晴らしい、四季を通じて登山が楽しめます。麓には多くの温泉があり、登山の疲れを癒してくれます。ぜひお越し下さい。

読書会のお誘い

「日野山と木ノ芽峠」は深田久弥夫妻にとって一人で登った最後の登山にまつわるもので、五六月はまた『日本百名山』より北と南の山です。

●四月二十四日（火）「日野山と木ノ芽峠」
●五月二十二日（火）「利尻岳」
●六月二十六日（火）「宮ノ浦岳」
●場所＝深田久弥山の文化館 聰山房
●時間＝午後一時半より三時

*詳細はホームページをご覧下さい

編集後記

何年かぶりの大雪に見舞われ今冬、山文も雪に埋もれてしまい木々の枝もたくさん折れてしましましたが今新たな芽吹きが始まっています。新しい資料文献室の完成も近づき桜の花も見ごろになります。是非山の文化館に足をお運びください。

聞こえ会予定

■六月十七日（日）午後一時半より三時

深田久弥山の文化館 聰山房

演題：深田久弥の北海道と俳句
講師：高澤 光雄 氏

（元丸善社員、深田久弥と多くの北海道の山に登った）